

文字摺通信

第 77 号
2024年12月 1日
発行:文字摺歴史文化社

ニハクタク探検隊その1ニ

川俣町東福沢薬師堂を訪ねてきました

11月5日、佐藤弘夫東北大学名誉教授を迎え（というよりも先生に愛車を出してもらい、運転までしていただいて）、我等ハクタク探検隊は川俣町を訪ねてきました。目的は東福沢薬師堂と川俣春日神社のハクタクの調査でしたが、2か所とも「へえ～」と感心すること盛りだくさんでした。そんな訳で、2回に分けて報告いたします。なお、探検隊の構成は、佐藤弘夫顧問と隊長の守谷、そして二人の隊員、佐藤美穂子・八巻美加です。

参道入口に川俣町教育委員会が立てた説明板があります。それによると「福沢薬師堂は、堂の北東麓に長床があり、古来より地域の羽山信仰の行や祭祀、および諸信仰行事の中核的な場とされてきた。江戸時代には、本山は修験京都聖護院末院の三条院が別当（運営）を務めた」そうです。ただ冒頭の長床には行きつけませんでした。（右の写真は川俣町教育委員会さん提供の昭和45年ごろの薬師堂です。）

急な石段を登っていくと、薬師堂があり、正面向拝の向って右に「白澤ハクタク」がありました。頭上に角のような突起が2本あります。額には第三の目があります。口を



半開きにして白い歯が覗いていました。この種のもは普通は左右一対なのですが、左側は左の写真ですが、牙はあるものの、ちょっと愛嬌のある獣です。木鼻の一般である獅子や像ではなく、犬のような霊獣でした。

